

令和6年度 学校経営計画に係る自己評価計画書

石川県立翠星高等学校

No. 1

重点目標	具体的取組	主担当	現状	評価の観点	達成度判断基準	判定基準	備考
1 地域の食や農業、環境問題に積極的に関わり、地域活性化に貢献する意欲と態度を育成する。	① ふるさと石川の食・農・環境について関心をもち、理解を深めるための講演会、研究会等を実施する。 ② 校内環境美化に積極的に取り組む。	全職員 各年次 各コース 各研究会	昨年度は、新型コロナウイルス感染症の感染防止のため、関連する講演会等を実施することができず、ふるさと石川の食・農・環境について関心を高められなかった。今年度は目標を達成するために、コロナ禍以前のように活動を広げ、取組を増やしていく必要がある。	【成果指標】 ふるさと石川の食・農・環境について関心が高まっている。	A 90%以上 B 70%以上 C 50%以上 D 50%未満	C、Dの場合は指導法、方策を再検討	7月、1月に生徒を対象にアンケートを実施
2 学習意欲の向上と進路に合わせた学力の定着を図るとともに、進路実現に向けて指導体制の充実に取り組む。	① 朝学習（翠星タイム）を通して、学びの姿勢を身に付けると共に、基礎学力向上が実感できるようになる。 ② 研究授業や互見授業を通して、授業における工夫・改善、効果的なICTの導入方法などを積極的に取り組む。	保健課 特活課 各年次 各分掌 各コース 教務課 各年次 各教科	昨年度のアンケート調査で「校内の環境美化に積極的に取り組んでいる。」と答えた生徒の割合が83.6%とB評価であった。さらなる改善のため、感染症対策における環境美化活動や環境美化週間や特別清掃の取り組みで、委員会の生徒だけでなく、生徒に関わりをもたせていく。	【成果指標】 校内の環境・美化に積極的に取り組んでいる。	A 90%以上 B 70%以上 C 50%以上 D 50%未満	C、Dの場合は指導法、方策を再検討	7月、1月に生徒を対象にアンケートを実施
3 学習意欲の向上と進路に合わせた学力の定着を図るとともに、進路実現に向けて指導体制の充実に取り組む。	① 朝学習（翠星タイム）を通して、学びの姿勢を身に付けると共に、基礎学力向上が実感できるようになる。 ② 研究授業や互見授業を通して、授業における工夫・改善、効果的なICTの導入方法などを積極的に取り組む。	教務課 各教科 全教員	昨年度は「授業が分かりやすい」とした生徒の割合が78%であった。協力的な学習等の推進、特にICTを活用した授業の進めながら、授業の改善を進める必要がある。	【満足度指標】 「分かりやすい」と満足している生徒が増えている。	A 90%以上 B 70%以上 C 50%以上 D 50%未満	C、Dの場合は指導法、方策を再検討	7月、1月に生徒を対象にアンケートを実施
4 学習意欲の向上と進路に合わせた学力の定着を図るとともに、進路実現に向けて指導体制の充実に取り組む。	① 朝学習（翠星タイム）を通して、学びの姿勢を身に付けると共に、基礎学力向上が実感できるようになる。 ② 研究授業や互見授業を通して、授業における工夫・改善、効果的なICTの導入方法などを積極的に取り組む。	進路指導課 各年次 各学科	就職や進学で生徒の志望傾向が徐々に変化してきている傾向にある。的確な情報収集に努め、正しい思考・判断を促すとともに、生徒の希望に沿った進路実現を達成したい。	【成果指標】 就職や進学において、生徒の進路実現を図る。	A 100%である B 95%以上100%未満である C 90%以上95%未満である D 90%未満である	C、Dの場合は指導法、方策を再検討	今年2回の進路希望調査、及び、年度末に進路指導課による集計

令和6年度 学校経営計画に係る自己評価計画書

石川県立翠星高等学校

No. 2

重点目標	具体的取組	主担当	現状	評価の観点	達成度判断基準	判定基準	備考
3	<p>① 教職員から積極的に挨拶を行い、始業・終業時の挨拶に統一を徹底する。また、農業クラブによる啓発活動を実施し、朝の挨拶への意識を高める。</p> <p>② 基本的な生活習慣の確立を目指し、遅刻や欠席者の減少に取り組む。また、農業クラブや公安委員会による啓発活動を実施し、無遅刻への意識を高める。</p> <p>③ 集会・HRなど様々な機会を通して、自身の「あり方・生き方」についても考え、学習することと併せて、いじめ他者への敬意と協力を尊重する姿勢や態度を育成する。</p>	<p>生徒指導課 全教職員 各年次 農業クラブ</p> <p>生徒指導課 全教職員 各年次 農業クラブ</p> <p>生徒指導課 全教職員 各年次</p>	<p>昨年度アンケート調査では「自発的に大ききな声で挨拶ができた」と答えた生徒の割合は69%、C評価であった。学校行事やST等で全職員一丸となった粘り強い挨拶指導と生徒会執行部と協力して挨拶活動を行うことが必要がある。</p> <p>健康で安定した学校生活を送るためには、基本的な生活習慣の確立が重要な要素である。登校指導や無遅刻月間の取組みをさらに推進し、生徒への指導と保護者の協力を得た連携した取り組みを徹底する必要がある。</p> <p>他者への理解やそれを尊重する態度が十分育っていないが、ためらうことなく挨拶が求められる。学校全体で他者理解や敬愛・協力の態度を育成し、いじめ防止に向けた取り組みを徹底する必要がある。</p>	<p>【成果指標】 自発的に挨拶ができてきた生徒が増加している。</p> <p>【成果指標】 基本的な生活習慣が身に付き、遅刻者が減少している。</p> <p>【成果指標】 アンケート結果により、他者を敬愛する態度が育まれている。</p>	<p>自発的に挨拶ができた生徒の割合は A 80%以上 B 70%以上 C 60%以上 D 60%未満</p> <p>基本的な生活習慣が身に付いたと答えた生徒の割合が A 90%以上 B 80%以上 C 70%以上 D 70%未満</p> <p>どのような理由があるとしても、いじめは絶対に許されないととの質問に対して「あてはまらない」と回答した生徒の割合が A 2%未満 B 2%以上4%未満 C 4%以上6%未満 D 6%以上</p>	<p>C、Dの場 合は指導 法、方策を 再検討</p> <p>C、Dの場 合は指導 法、方策を 再検討</p> <p>C、Dの場 合は指導 法、方策を 再検討</p>	<p>7月、1月に生徒を対象にアンケートを実施</p> <p>7月、1月に生徒を対象にアンケートを実施</p> <p>生徒指導課による実施するアンケートによる集計</p>
4	<p>① タイムマネジメント、効率的な基活動や課外活動の推進し、活力ある学校づくりに取り組む。</p> <p>② 農業クラブ活動の内容を充実し、生徒の参加を通じて、その意義を理解させ、生徒の農業及び学習分野に対する関心及び学習意欲を高める。</p> <p>③ 統一的な取り組みや学校の独自性の多忙化改善を進めることで、時間外勤務時間の削減に取り組む。また、次年度の効果的な取り組みのためにデータ分析・調査を進める。</p>	<p>特活課 農業クラブ 全教職員 各年次</p> <p>農業クラブ 農業科 各研究会 各コース</p> <p>全教職員</p>	<p>昨年度アンケート調査で、部や研究会活動に積極的に活動している」と答えた生徒の割合は78%で、昨年度に比べて増加した。部や研究会活動が活発になり、学校全体に良い影響が出ているため教員の多忙化改善にもバランスを取りながら活性化を図っていく。</p> <p>近年は、農業クラブで全国大会で優秀な成績を収めているが、一部の生徒たちの取り組みが、全教職員が、積極的に農業クラブの意義を理解し、専門分野に対する意識や全国大会に向けた農業クラブ活動への参加意識を高める必要がある。</p> <p>昨年度の勤務時間の数値は、一昨年度に比べわずかながらある改善がみられた。しかし、定時退校日や業務改善への意識は、向上したとはいえない。さらなる、適切な時間外勤務平均値となるように努力する必要がある。</p>	<p>【成果指標】 部や研究会活動などに積極的に活動する生徒が増加している。</p> <p>【満足度指標】 農業クラブ活動への参加を通じて専門分野への学習意欲が高まった生徒が増加している。</p> <p>【成果指標】 働き方改革の意識が共有化し、多忙化改善に向けた取り組みにより時間外勤務時間が減少する。</p>	<p>部や研究会活動などに積極的に活動する生徒の割合は A 80%以上 B 70%以上 C 60%以上 D 60%未満</p> <p>農業クラブ活動への参加を通じて専門分野に対する学習意欲が高まった生徒の割合が A 70%以上 B 60%以上 C 50%以上 D 50%未満</p> <p>超過勤務ガイドライン上限45時間を下回る職員の割合が A 75%以上 B 60%以上75%未満 C 50%以上60%未満 D 50%未満</p>	<p>C、Dの場 合は指導 法、方策を 再検討</p> <p>C、Dの場 合は指導 法、方策を 再検討</p> <p>C、Dの場 合は指導 法、方策を 再検討</p>	<p>7月、1月に生徒を対象にアンケートを実施</p> <p>7月、1月に生徒を対象にアンケートを実施</p> <p>時間外勤務調査の結果を集計</p>